

HSK NPO 法人「文福」ニュース****



NO.295

冒頭の一言

新年明けましておめでとうございます。皆さまには穏やかな新春が迎えられたことかと思えます。

昨年もいろいろあったかと思えます。新しい紙幣の発行、パリオリンピック・パラリンピック、アメリカ大統領選挙、メジャーリーグの日本人選手の活躍、特に大谷選手はいくつもの記録を塗り替えてくれました。

そんないろいろあった中に、悲しいことやつらいこともあったかと思えます。それでも 2025 年はみなさんと色々なことを共有できたならなと思えます。

ゆき

—もくじ—

冒頭の一言 … 1	年頭の挨拶 … 2	ザ★カイジョ報告… 3-5
学習会報告 … 6-8	運営会議報告 … 9	ありがとうコーナー … 10

年頭の挨拶

NPO法人文福 理事長 福田文恵

2024 年は 1 月 1 日に能登半島地震が発生し、富山では珍しく大きな地震が起こり、個人的に初めての大きな揺れだったので驚きました。

地震や水害の事について改めて考えなければいけないと、文福でも災害時の研修をし、災害が起きた時、何をどうするのかと言う事を自分達なりに確認しました。

コロナ禍が明け、数年振りにお花見を事務所の近くの公園で行い、久しぶりの集まりにホッとしました。

近年は夏は猛暑、冬は大雪と言うのが印象付いてしまい、私達の活動の幅が段々狭くなってきています。

これを書いている時にも地震が起こり、余震で揺れている状態です。

富山は地震が起こらない地域だと言われてきましたが、それも過去の事になり、地震の揺れには、慣れる様にと考えなければいけないと思います。

今後も今まで通りご指導ご鞭撻していただけますようよろしくお願い致します。

皆様におかれましても 2025 年は良い年でありますように。



ザ☆カイジョ報告

今年度第 2 回目の県指定 重度訪問介護従業者養成研修「ザ☆カイジョ」基礎課程を 10 月 26 日（土）27 日（日）サンフォルテで、追加課程を 11 月 9 日（土）文福事務所にて行いました。

今回は外部の方々と新しく入られた文福アルバイトを含め、男性 3 名と女性 2 名の計 5 名が受講されました。

基礎課程では、障害者スタッフ数名の地域生活の様子や、ヘルパーとの関わりの様子などの動画を真剣に見入っていました。

追加課程では、妊娠・出産を経験された障害者スタッフが生き立ちと医療との関わりについて話されて、受講者からはスタッフの生き方に大変驚いておられました。

各講師の話聞いてメモに取ったり、積極的に質問をされていました。

受講された皆様、外部から講師をしてくださった方々、スタッフの皆様、ご協力頂きありがとうございました。

受講された方々からの感想を原文のまま下記に掲載します。

また講師の方にも感想を書いてもらいましたのであわせて掲載します。

《基礎課程》

・車いすをひいて、外へ出たのは初めてだったけど、楽しくさせてもらいました。そして食べさせて話もしてよかったなと思っています。

- ・介護技術として起こしなどについて実技した。力の効率の良い入れ方や、てこの原理を駆使するなど学習しました。案外、人間は指先一つで立てなくなったり起き上がれなくなるので驚きました。

《追加課程》

- ・S 氏の経験談を伺い、本当にコミュニケーションを知れるようになるまで、時間がとてつもなくかかるのだなと感じました。障害者 1 人 1 人、表現の仕方もまったく違う中、根気のいる事だなと笑いましたが、S 氏の「足、足、大根役者！」と、お互いが通じ合った時の楽しさを教えて頂きました。

※担当からの補足

「足、足、大根役者！」というのはヘルパーと買い物に出かけたときに、障害者スタッフが足を指さして、様々な例えを出して最後に「大根」とわかって意思が通じたという話です。



ザ☆カイジヨの講義を終えて

N子

11/9（土）重度訪問介護従事者養成研修 “医療的ケアを必要とする利用者の障害及び支援” についての講義と実技を担当しました。

講師の代役の依頼があり悩みましたが、貴重な経験になると思い引き受けさせて頂きました。

講義には 4 名の方が受講されました。

講義では脳性麻痺の原因と分類（タイプ）により筋緊張や姿勢に特徴があることや 2 次障害と介助上の注意点、体位変換は注意すべきことは踏まえた上で、様々な姿勢を多くとれるようにすることが大事とお伝えしました。

実技は 2 人 1 組で食事介助をしてもらいました。脳性麻痺の方は口や舌、喉が協調して働きにくいことを説明し、声かけをしたり介助者が見えるような姿勢にするなど、食事がしやすくなるポイントをお伝えしました。特に介助される側の体験することで理解してもらえたのではないかと思います。

実技後にはスタッフの方の経験談、また脳性麻痺当事者としての想いなど貴重なお話を聞かせて頂きました。脳性麻痺の障害・背景を頭におきながら、相手の方を理解しようとする気持ちが大事であることを改めて感じました。受講者の方は講義・実技とも真剣に取り組んでおられました。仕事に従事される上でこの講義の内容が役立てば嬉しいです。

受講者の皆様、スタッフの皆様、お疲れさまでした。

学習会報告

河上千鶴子（アパッチ）

11月16日（土）学習会を文福事務所にて、DVDを観て考えようという事で行いました。今回のDVDは、「最期を選ぶということ・安楽死のないこの国で」というドキュメンタリー番組でした。

この日は、いくつもイベントが重なった上に担当者の体調が悪くて、宣伝や場所の設定も出来ない状態で行いました。そういう事もあって、参加者は少なかったのですが、DVDを観た後、それぞれの感想を出し合いました。

「安楽死」（自殺幫助）を望む人のケースを何年間にもわたって取材したものでした。

まず、京都で起きたALS患者囑託殺人事件で患者に関わっていたヘルパーさんとの話から始まった。

良子さんは、パーキンソン病で、「スイスで安楽死してレマン湖に散骨してほしい。」と望んでいた。その後望みを叶えたことがわかった。

矢島さん男性は、呼吸困難になる難病で、やはり、安楽死サポート団体に登録を申請していた。番組の終わり頃に申請が受け入れられたので、安心感からか、元気になっていた。

スイスでは、自国だけではなく、いろんな国からの「安楽死」登録を受け入れている。全体で1500人、日本からは60人がしているとの事。

スイスには、受け入れる団体が二つあるという。3万人の会員がいるが自然死が多い。

スイスでの安楽死申請のために必要な書類は、英語で書かなければならない。

- ・ 死を希望する理由書
- ・ 自身と家族との略歴書
- ・ 医師の診断書

スイスで、実際に安楽死を遂げた人の映像が流れた。

日本では京都の事件をきっかけにALS患者の会では、安楽死に反対する声があがっている。「安楽死について問うより、生きていたいと思う国にしてほしい」。

マユミさんは、癌がいろんなところに転移して、痛みが激しい状態で、安楽

死を認められたのは、2 年前。家族 4 人も承諾していた。

かいつまんで、内容を紹介しました。

- 死にたいと思っけていても、ちょっとしたことで、気持ちが変わる。
- 痛みは、他人には、わからない。
- 初めに出て来た：人は、まだ、十分生活していけるのに、なんで安楽死に急いだのか、わからない。自殺を選ばないのか？
- 安楽死を望む人は、結構、高学歴でエリートだった人が多いと思う。
- 登録に必要な申請書類を、英語で書かないといけないので、書けない。
- 安楽死には、反対だ。本人はいいかもしれないが、近い者にとっては、これで良かったのだろうかと一生悩むと思う。
- 世界では、安楽死を認めている国が増えて来ている。

などの意見が出されました。私自身 7 月から、背中の右横、横腹の痛みがつづき、整形外科や内科に行き、いろいろ検査をしていますが、未だに痛みの原因がわかりません。この痛みがこれから先一生続くかと思うと、気がめいってきます。安楽死の問題は本当に難しいと、改めて思いました。



11, 16 学習会『最期を選ぶということ～安楽死のないこの国で』を見て
四十物 和雄

今回は 6 月フジ TV で放送された『最期を選ぶということ～安楽死のないこの国で』の録画を見て感想を述べあう企画でした。なぜかこの間安楽死・尊厳

死関係の企画が続いていますが、結論めいたものは依然として出ていません。私としてはずっと安楽死に対して否定的な見方をしてきましたが、今回 DVD を見て、改めてその思いを強くしました。

2019年京都 ALS 囑託殺人事件をきっかけにして、日本国内でもこの問題に大きな関心が寄せられてきましたが、今回の放送もその一環です。4人の方が登場します。京都の事件で亡くなられたHさんのヘルパーさん、難病をわずらって安楽死を求めスイスでの自殺ほう助団体に助けを求めようとしてきた3名の方が、主要な登場人物です。結論めいたものは示されていませんが、多分に安楽死の解禁に親和的なつくりとなっています。安楽死を望む本人が主人公となるため、そのことに感情移入しやすいつくりになっています。この手の番組に伴う根本的な問題だと思いました。

私が改めて強調したいことは、以下のことでした。本人と近い人、サポートしてきた人の声・悩みが疎かにされているのでは？ということです。周辺の人たちは当事者本人の意思に反するような声を上げることがそもそも難しいのです。

「安楽死を認めたのは正しかったのか？」。近い人にとって、その死に何らかの形でかかわっていることなら、この問題は一生その人に付きまとうことでしょう。何度も何度も問い続けねばならない問題のはずです。

人間・人間社会の行いは常に正しいことと過ちとが紙一重であることを教えてくれます。それを自己決定という権利をもって「安楽死」を正当化するようなことで、私たちは果たして充分納得できることなのでしょうか？そこに無理がないのでしょうか？どうしても「私という自我」から生まれた欲望には、自然の秩序に反した、安易に正当化を許さない問題がある様な気がします。今回強くそのことを感じました。

高本清香

安楽死の問題は本当に難しく、感想を言葉や文章にするのも困難です。

視聴した DVD の中では主に、華々しい人生を送っていたのが病気で一変し見苦しく生きて最期を迎えるくらいなら死を選択する、という方々を取材されていましたが、自分のプライドのために尊厳死を願う本人と、それを受け入れる家族の姿がとても切なかったです。

11 月 26 日 運営会議報告

○学習会

- ・ 11 月 16 日「最期を選ぶということ、安楽死のないこの国で」というビデオを上映した。参加者は、他の行事が重なり 7 人だったがやって良かった。

○障害者部会

- ・ 先月の運営会議を受け、部会でオンライン参加の実験をした。
- ・ 住んでいる地域のバリアフリー化について会員各自の感じている事を出し合った。改善要請や抗議など、何か行動を起こしたか尋ねたが誰もいなかった。

○派遣

- ・ ザ・カイジヨ無事終了した。訪問実習も終了。

○レクリエーション

- ・ 今の所予定無し。

○ニュース

- ・ 今現在、来年 1 月 1 日号発送作業中。ザ・カイジヨと学習会の報告、理事長の冒頭あいさつを掲載。印刷は 12 月 13 日までに終了予定。
- ・ 24 日発送作業終了予定。

○まっち

- ・ まっち 30 号のテーマは「自分の推し」。〆切は 12 月末日。
- ・ 発送予定は年明け 1 月末日。天候の関係で予定延期あり。
- ・ テーマ以外の原稿も随時募集中。

○忘年会

- ・ 今年の忘年会は 12 月 17 日火曜日、場所はホテルグランテラス富山。
- ・ 12 時半受付、13 時開始。
- ・ 当日の担当者を決めた

○事務所の年末年始の休み

- ・ 12 月 30 日～1 月 3 日。25 日 26 日、ワックスがけ。
この間事務所は立ち入り禁止。

○社有車の利用について

- ・ 自宅から事務所までの使用は無料。しかし部会員各自の家から事務所までの距離を超えた場合や私用での利用は有料。

○来年 1 月、2 月の運営会議は、オンライン会議が可能なため一応開催予定。

○次回の運営会議 12 月 24 日（火）午後 2 時から

（文責日下）

ありがとうコーナー

2025年



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今年もよろしくお願ひします。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

新年あけましておめでとうござひます。

今年もよろしくお願ひします。

2024 年は、新年早々能登半島地震が起き、その後も台風や豪雨で各地で大きな被害が出た年でした。新しい年が平和で自然災害が少ないことを願って、新しい年を迎えました。

そして、みんなが健康で過ごせたら良いと思っています。
(アパッチ)

2024 年度新規会員・継続会員

小倉 利丸さま 大塚 聖也さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

編集人：特定非営利活動法人 ^{ぶんぶく} 文福

〒930-0138 富山市呉羽町 7276 番地 3

e-mail: bunpuku@ab.auone-net.jp

HP: <https://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 460-0390

定 価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。